

丹波焼の里 ミュゼシター

発行：やきものの里プロデュース倶楽部

2019
autumn
winter
vol.
26



伝市鉢・アガベ

丹波の手仕事 匠の技 12

伝市窯 「植木鉢」 市野 伝市氏
達也氏

薪燃料の改革実験研究事業
ー竹燃料の可能性ー

丹波焼の里の楽しみ方、色々 パート2

インタビュー

「丹波焼 時代の流れとともに」

丹波立杭陶磁器協同組合理事長

市野 秀之氏



我が家には今年、クリスマスローズのこぼれ種から発芽した苗がいくつかある。是非伝市鉢に入れて育ててみようと思った。

登窯焼成も盛んにされている。梅雨明け間近の7月に煙が上がっていた。暑い日の窯焚きは体力を消耗するが達也氏は見学のお客様さんと楽しく談笑しながら薪をくべておられた。「登窯は最初から全て薪だけで焼いている。そこはこだわっているよ。火色が出たり窯変などの景色の優れているのを求める客さんもいるし、もうただ好きやという人もね。僕も登窯を焼くのが好きやしね」産地への思いも熱く丹波焼から地域全体を盛り上げて行くような仕組みを発信していきたいと語られる。「父伝市の苦労が報われて今がある。お客さんが名づけてくれた『伝市鉢』、だれにも負けない自信を持って作ってる。オンラインワンの焼き物やからね」

丹波焼の里、最古の登窯の横には県指定天然記念物のアベマキの木がある。樹齢三百年といわれるその古い木から少し上がったところに伝市窯はある。工房の入口には出荷を待つ植木鉢が所狭しと並んでいた。奥にはロクロの前で一心に作陶する二人の姿があった。市野伝市氏とその息子達也氏である。成形ができたばかりの鉢はまだ水分を含んで窓からの光に照らされてヌリリと並んでいた。以前はこの窯元でも作られていた植木鉢は、今は数軒が作るだけになっているが、伝市窯は植木鉢に特化した窯元である。昭和38年ごろ東京の山野草の会からそれに合う植木鉢を作ってほしいと頼まれて、伝市氏が試行錯誤して作った鉢が、育ちやすく枯れにくいと評判になり、「伝市鉢」と呼ばれるようになった。桜草会や朝顔会の審査会では伝市鉢何号と指定されるほどになった。愛好家からそれほど信頼を得るにはご苦労があったのではと伺うと、「土の配合が一番苦労したね。粗めにしたり、底の穴を大きくしたり、角度を微妙に変えて水はけをよくして自然に近い状態になるようにいろいろ工夫をしてね。山野草にあう植木鉢は山と同じ環境になるように作ることやね。『山と同じに植木鉢を作る』この言葉に伝市氏の途方もない繰り返しや試み、絶え間ない努力を感じ心にぐっと来るものがあった。「草花を生かして育て花を咲かし、そしてそれを愛でて和んでもらう。お客さんに喜んでもらうことが一番うれしいことやね。リピーター率100%の自負があるからね」



丹波の手仕事

匠の技 12

伝市窯「植木鉢」 市野伝市氏・達也氏

伝市窯 市野伝市・達也

〒669・2135

兵庫県丹波篠山市今田町上立杭488

電話 079・597・2413

文 上田 智津子 写真 迫田 隆

薪燃料の改革実験研究事業

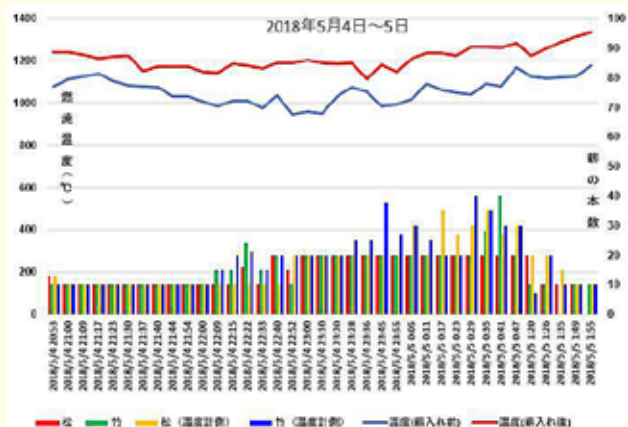
薪燃料の可能性

平成27年(2015年)6月、丹波焼「最古の登窯」は、約2年にわたる修復事業を終え、同年11月21日初焼成の火入れ式が行われました。丹波焼の里のシンボルでもあるこの窯は、明治28年の築窯で今日に至るまで120余年間使い続けられた「兵庫重要有形民俗文化財」です。我々はこの貴重な文化財の窯を舞台に、篠山東雲高校、丹波立杭陶磁器協同組合、兵庫陶芸美術館と「薪燃料改革実験研究事業プロジェクト」を結成しました。

一般的に登り窯の焼成では松の薪材を大量に用います。一方で放置竹林が生物の多様性に影響を与え、景観破壊など様々な社会的環境問題を引き起こしていることから、竹を松の代替燃料として活用することで地域再生可能な資源の循環型社会を目指せないか検討することをプロジェクトの研究テーマとしました。



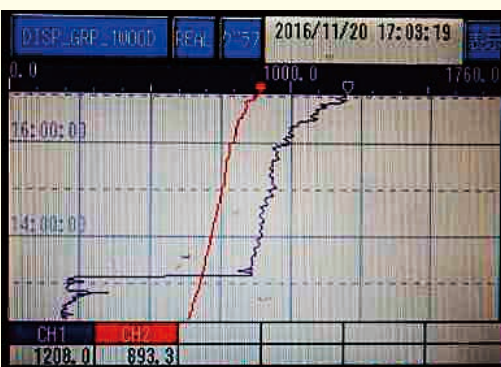
篠山東雲高校、丹波立杭陶磁器協同組合、兵庫陶芸美術館と合同での竹伐採作業



松と竹を概ね半々で投入しながら温度を計測。

土壌改良材として竹チップを活用していた篠山東雲高校「しののめ竹林バスターズ」と共に、我々は「最古の登窯」焼成のための松薪材の代替燃料として放置竹林の有効活用を検討、修復後の初焼成以降3回の実験焼成を行いました。

実験焼成では試行錯誤の上、松割薪材と竹割薪材を概ね半々がベストと考え窯に投入したところ、作品として問題なく焼きあがっていることから、松薪材の代替燃料として竹を活用できると確信しました。竹を代替燃料として用いた窯の中では、竹特有の灰釉が掛った白っぽい作品や優美な草木染の中黄(なかき)に似た景色の良い作品、独特の色合いの



最高温度は1300℃近くまで達した。

作品が得られた一方で、焼成温度や化学分析などの実験結果から再現性を確認するまでには至りませんでした。しかし竹を燃料として用いることに興味をもってご自身の作品で竹薪焼成を試みてくださる窯元もおられ、その焼き上がりも松薪での焼成と遜色なかったことから、今後とも検討を続けるに値すると考えます。

3回目の焼成をもって、竹割薪材利用による薪燃料改革実験研究事業は小休止となりますが、いつか又、今回の結果を踏まえ次のステップに進む機会を得ることが出来れば幸いです。

陶芸文化プロジェクト
薪燃料改革部



3回目の窯出し



2回目の焼成の味噌壺

一般的な登り窯焼成ではあまり見られない色合いが得られた。



↑炎を吹くハチノス

文・写真 増田知子

丹波焼の里の 楽しみ方、色々 パート2

丹波焼の里には、四斗谷川と東条川という、蛍の飛び交う二本の美しい川が流れています。

今田まちづくり協議会では、蛍生息箇所調査を2014年から行いました。最も多くの蛍が見られたのは陶の郷の近くにある四斗谷川に架かる立杭橋の近くでした。そこで、「蛍の飛び交う美しい町」のシンボルとして立杭橋に丹波焼の蛍を設置することを決め、陶幸窯の市野浩祥氏に制作をお願いしました。



依頼内容は、欄干の上に止まる、灯りをともす蛍でした。浩祥氏は、蛍の発光器が腹部にあることから、葉に止まる蛍を考えましたが、強度を考慮し、灯りのドームにもたれ掛かる形に落ち着きました。触覚と肢には、自転車のカゴのワイヤーを使いました。

灯りは、実際の蛍のようにゆっくりとタイマーで点灯するようになっていますが、蛍が光に敏感なため蛍の飛び交うシーズンには消されています。それでも、近くに街灯が設置されたため、蛍の群れの中心が、2キロほど上流の休場公民館の近くに移ってしまいました。

2018年には、ジャパンビレッジゴルフ倶楽部の入り口にある東条川に架かる西道橋の欄干にも丹波焼の蛍が飾られました。興味のある方は、足を延ばしてみたい方が多いでしょう。

取材 植田正実



丹波焼 時代の流れとともに

丹波立杭陶磁器協同組合

理事長 市野 秀之

《プロフィール》

1963年 丹波立杭に生まれる

1981年 清水陶芳氏に師事

1998年 日本工芸会正会員に認定

2019年 丹波立杭陶磁器協同組合理事長に就任

丹波立杭陶磁器協同組合の理事長に就任された市野秀之氏に、丹波焼のこれからについてお話を伺いました。

―理事長に就任されて、仕事や生活面での変化は

ものを作って暮らしが成り立つ職業なので、仕事は遅れています。選んでいただいた二年間は、産地のことを中心にと腹を括っています。

日本遺産やユネスコの認定、最古の登窯など、多方面の方々に大きな支えをいただいている産地です。で、対外的な付き合いも増えてきています。

―ひと昔前との時代の違いは

作品や商品を発表・販売するスタイルにかなりの変化がみられるように思います。産地の発展を大きな目的とし個々の活動も認め合いながら事業や運営を進めて行かなければと思います。フェイスブックやインスタグラム、HP管理などの情報発信などは今後も更に重要性が高まりますし、移り変わりが激しい分野など、産地をPRする為のプロデュース企画などはどんどん専門分野の方々に携わっていただきたいと思います。

―これが丹波焼という定義は

よく聞かれる質問です。この器が丹波焼というひとつのブランドはないので、これが丹波焼という定義は難しいです。ただ蛇窯で焼成、黒丹波、白丹波など、伝統的な技法や焼成・成形方法など、先人達の思いを大切にしながらこの土地で作っている事に大きな意味があると思います。

―丹波焼と言うにはこれだけは守

らないといけない条件は

組合では、平成29年12月に「丹波焼」で特許庁から地域団体商標に認定を受けました。

主旨としては「丹波篠山市周辺の粘土を主要な原材料として丹波篠山市今田町及びその周辺で生産された陶磁器」が丹波焼であると規定しています。

―陶器まつり、春ものがたりの今後の進め方は

秋の陶器まつりは、一年間のお礼を込めて開催しています。春ものがたりは、作家さんを知ってもらうのが目的です。春も販売を中心という時代がくるかもしれませんが、任期中はこのままで継続したいと思っています。

4月28日に開催した軽トラ市は、大自然の中で気軽に作品を見てもらい、新しい出会いや新たなファン獲得に繋げていただき、秋は販売が大きな目的ですが、春はお客様と顔を合わせて、作り手の思いをわかっってもらいたい。そんな思いです。

―普段は窯元さんの門戸が閉まっています。入りにくいとの声が聞かれますが

以前よりは窯元巡りを楽しめるお客様も増え、観光地としてのおもてなしの気持ちもより一層大切にしています。年々産地全体がオープンになっておりますし、気軽に入っていただくギャラリーも増え、案内看板も充実しておりますので、更に路地歩きやギャラリー巡りも楽しんでいただけたらと思っています。

―エコミュージアムの構想は

全体がミュージアムという構想は、美術館ができたときから言われ

ていました。

窯元めぐりも十数年経つと理想のコースはできていると思います。最古の登窯を中心にモデルコースを作り、公共用地などの駐車スペースを利用いただき、そこから歩いて見学やお買い物をしてほしいですね。楽しんでもらえるようジョイントとなる場所をしっかりと整備することが必要です。同時にこの産地の暮らしも大切に考えたいです。

―最古の登窯が一部崩落しましたが、来春の焼成は

開催は決定しています。丹波篠山市のユネスコ創造都市ネットワーク加盟が四年目を迎え、次の四年間の提言書を提出しないといけない。その大きな役割を占めるのが丹波焼。最古の登窯を脈々と継続していくことが盛り込まれています。毎年修復しないといけないのが現状で、焼成と修復、そして築窯技術を伝統工芸士や先輩達が若手に継承していく事業化を考えています。

―日本遺産「きつと恋する六古窯」の活動計画は

今までも六古窯間の交流はありましたが、行政間事業や個々の展示会などがメイン。日本遺産認定を機会に文化や暮らし、産地同士を繋げる懸け橋になってほしいと思います。六古窯が集まり、日本の陶芸ファンを増やす仕掛けをして行きたいし、そのような事業や催事があれば組合としてもバックアップしていきたいと考えています。

熱い語り口は、丹波焼の今後を大いに期待させてくださるものでした。

聞き手 佐藤 詩子

写真 迫田 隆

interview

源泉かけ流しの日帰り天然温泉

コんだ薬師温泉
ぬまの郷

緑に囲まれた広い露天風呂で
ゆったり、のんびり
農産物直売所、レストランも併設、
1日ゆっくりお過ごしください。



営業時間

AM10:00 ~ PM10:00

(PM9:30 受付終了)

定休日 毎週火曜日(祝日は営業)

〒669-2153

兵庫県丹波篠山市今田町今田新田 21-10

TEL.079-590-3377

<http://yume-konda.com/>

◆ 入浴料 ◆
大人 700 円
(12歳以上)
小人 300 円
(6 ~ 11歳)



兵庫陶芸美術館 2019年度 展覧会の見どころ

●特別展のご案内

「神業ニッポン 明治のやきもの -幻の横浜焼・東京焼-」

令和元年10月12日(土)～12月15日(日)

幕末の開港により、世界へと門戸を開いた日本へは、明治の幕開けとともに諸外国から多くの人々が日本を訪れました。彼らは、日本の風土、文化に魅せられ、浮世絵や陶磁器、漆器など、さまざまな品物を購入し自国へと持ち帰りました。これら日本の美術工芸品は当時、欧米で開催された万国博覧会で高い評価を得て、海外へ大量に輸出されました。中でも陶磁器は、金彩や色絵技法を駆使した華やかな装飾、複雑な彫刻が施され、精緻な手仕事による職人芸を極めた、まさに「神業」、「超絶技巧」と呼ぶにふさわしいものでした。

本展では、幻の陶磁器と呼ばれている「横浜焼・東京焼」に焦点をあて、国内随一のコレクター、田邊哲人氏のコレクションから精選した作品と日本に現存する優品を一堂に会し、幻といわれるその全貌に迫ります。

井村彦次郎 色絵花鳥文蓋付壺(対) 田邊哲人コレクション



●テーマ展のご案内

神農巖展

令和2年1月2日(木)～2月16日(日)

泥漿(でいしょう)を何度も筆で塗り重ねて模様を施す「堆磁(ついじ)」という独自の技法を創出し、白磁、青磁、青白磁による新たな作風を築いた作家・神農巖氏(1957-)。本展では、堆磁による清らかな作品とともに、「祈り」をテーマとする造形的な作品を合わせて展示し、その奥深い創造と精神世界を辿ります。

神農巖 祈り「鳳凰」

2018年 個人蔵 写真：山崎兼慈



丹波焼の世界 season3

平成31年3月27日(水)～令和2年3月22日(日)

(令和2年2月25日(火)～3月6日(金)は休館)

season4 3月25日(水)～

TAMBA NOW+ 2020

令和2年1月2日(木)～2月16日(日)

兵庫陶芸美術館は、2015年に開館10周年を記念して、テーマ展「TAMBA NOW+ -いま、丹波で活躍する作家たち-」を開催しました。15周年を迎える2020年の新春、その第二弾では、丹波篠山市を制作の場として活躍する陶芸家の作品を通して、丹波のやきものの今の姿を幅広く紹介します。

The 備前 -土と炎から生まれる造形美-

令和2年3月7日(土)～5月24日(日)

釉薬を施さず、土と炎と造形のみで魅せるシンプルで原始的なやきものである備前焼。本展では、桃山時代に茶人の間で栄えた古備前の名品から、古備前の魅力を再発見し、その復興に取り組んだ近代備前作家の作品、さらに現代の備前を牽引する人間国宝から新進気鋭の作家までの作品を一堂に展覧します。

金重陶陽「耳付水指」個人蔵



兵庫陶芸美術館 〒669-2135 丹波篠山市今田町上立杭4 電話：079-597-3961 (代表) HP <http://www.mcart.jp>

プレゼントのお知らせ

兵庫陶芸美術館・陶の郷・こんだ薬師温泉の招待券を3施設セットでペア5組10名様にプレゼント。

●応募方法
ハガキに 〒住所・氏名・年齢・本紙の入手場所(〇〇美術館など)・ご意見、ご感想をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

●締め切り
2020年2月末日消印有効。応募多数の場合は抽選になります。

●宛先
〒669-2135
丹波篠山市今田町上立杭4
兵庫陶芸美術館内「陶芸文化プロデューサー」宛

なお、ご応募頂いた方の個人情報は当選者への発送、本紙企画の参考以外の目的には使用いたしません。また当選発表は発送をもってかえさせていただきます。

▼問合せ
丹波立杭陶磁器協同組合(陶の郷) 電話：079・597・2034
交通のご案内
会場付近は交通規制があります。各所に設置の駐車場をご利用ください。
各会場への移動は巡回バス(無料)をご利用下さい。
電車ご利用の方は
JR相野駅⇔陶の郷 臨時シャトルバス(有料)運行
周辺の施設
こんだ薬師温泉「ぬくもりの郷」源泉かけ流しの日帰り天然温泉
会期中は陶器市会場から温泉までマイクローバス(無料)で送迎致します。また、お食事処、黒大豆枝豆や米など農産物の販売もあり

○窯元横丁
・上立杭公会堂のギャラリー「24マス」では「ちいさなやきもの展」を開催。展示販売します。
○今田支所周辺
・窯元ごとにテントが並びます。(陶器市)
・黒大豆枝豆を中心とした地元の、新鮮野菜の販売や飲食コーナーもありです。
○陶の郷
・丹波焼「うつわdeレシビ51選」器と料理のマリアージュ
・「丹波大茶会」日本酒田「陶の郷工房実演」
・「うまいもん大集合」「チャリテイオークション」「チャリテイーガチャポン」なども催されます。

◆第42回 丹波焼陶器まつり
「令和元年「丹波篠山市誕生元年」」
丹波焼の魅力あふれる多彩なイベントが催されます。
●期間 10月19日(土)～20日(日) 午前9時～午後5時まで
●兵庫陶芸美術館
・期間中特別割引料金にて観覧できます。各日特別展観覧者先着100名に丹波焼小皿をプレゼント
・第3回ハンドメイドクラフトフェス
・「工芸と出会う」陶芸、木工、ガラス、織物、こけ玉など様々な素材を活かした手づくり作品が並びます。
・「Liveを愛しむ」里を一望するウッドデッキを舞台に音楽Liveをお楽しみください。
・「味わう」レストラン「虚空蔵」での地域の食材を活かしたランチ。カレー、たこ焼、焼きそば、焼き栗などの屋台も並びます。
「味わう」レストラン「虚空蔵」での地域の食材を活かしたランチ。カレー、たこ焼、焼きそば、焼き栗などの屋台も並びます。

イベント案内

Event information

丹波伝統工芸公園

立杭 陶の郷

〒669-2135 兵庫県丹波篠山市今田町上立杭3
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232
URL.<http://www.tanbayaki.com/>
【入園料】高校生以上 200円
小中学生 50円

年中無休

開園時間

4月～9月 AM10:00～PM6:00
10月～3月 AM10:00～PM5:00

但し、年末年始は除く

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

窯元横丁

丹波焼の51軒の窯元の作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしくあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティストックな作品まで、さまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分で歩いてみてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸体験してみませんか。小さなお子様からご高齢の方まで、手びねり(粘土細工)や絵付け体験に挑戦していただけます。釉薬をかけて焼き上げてから、ご自宅まで宅配便で発送いたします。あなただけのオリジナルやきものをつくってみるのも楽しいですよ。